

小学生高学年の部



私たちが今できること

石巻市立湊小学校 6年 松川 心海

水道をひねると水が出る。毎日当たり前のことです。私は、特においしいとも思わなく、少し抵抗を感じることもありました。両親がら、震災の時に水がないことが一番困っていた話を聞かされても、そのころまだ2歳だった私には、あまりピンときませんでした。

先日、テレビのコマーシャルで、びっくりする光景を見ました。世界には、今でも、生きるために雨水や泥水を飲んでいる人もいるということです。私だったら、絶対いやだ、意地でも飲みたくないなぁとがまんすると思います。水道のない国の人たちの生活の様子を見ていて、お風呂や洗い物はどうしているんだろうか、お風呂や料理、トイレはどうしているのかな・・・と心配になりました。

さらに、私たちと同じくらいの女の子が、小学校にも行けず、毎日水くみをするために一日中歩いているということも知り、かわいそうに思いました。しかも、泥のまじった水を汲んでいるのです。私は今、毎日楽しく学校に通い、先生から勉強を教わり、友だちと楽しく遊んでいます。そして、将来はおいしい料理を作るパティシエになりたいという夢もあります。でも、水くみだけで毎日を過ごす子どもたちは、どんな夢や目標をもっているのか、それをかなえられるのかなぁと思いました。

さらに驚いたのは、日本のように全国どこでも水道が整備され、いつでもどこでも安心して水が飲める国というのは、めずらしいということです。

私は、自分のように、「毎日水を飲めるのは当たり前」と考えている子どもや大人の人もいるのではないかと思いました。そこで、自分たちに今できることを3つ考えてみました。

1つ目は、水道関係の仕事をしている人たちのことを良く知るということです。どうやって水道を作るのか、安全な水を作るためにやっていることを知れば、水の味も変わるのではないのでしょうか。

2つ目は、ダムや水道を作るために、募金をしたりすることです。一杯の水さえ飲めない人たちの力になってあげることで、救われる命もあると思います。

3つ目は、一人一人が水をむだづかいしないように気をつけることです。水道の蛇口を出しっぱなしにしたときに、この水を、遠い国の水くみをしている女の子に届けたら・・・と考えれば、みんな、今までよりも、水を大切にしないではないのでしょうか。

水道を作る人たちは、雨がふらないことを心配したり、濁水から私たちを守ろうと一生懸命に仕事をしています。きっと「すべての人たちに安全においしく水を飲んでもらいたい。」という願いをもって、毎日のお仕事に励んでいるのでしょう。

私は、これからは、水道を作る人たちに、感謝の気持ちをもって、自分のできることを一つ一つ実行しながら、おいしい水を飲んでいきたいと思います。